プレスリリース（仮訳）

2025年4月10日

ドイツ・ベルリン

監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）が2025本会合をドイツ・ベルリンにて開催

4月8日から10日にかけて、ドイツ監査人監督機構（AOB¹）の主催で、2025年IFIAR本会合が開催された。49の国・地域を代表するIFIARメンバーが参加し、監査業界における主要な動向や新たなトレンドに関する議論を行った。

当本会合をもって議長の任期を終える長岡隆氏は、次のように述べた。「IFIARの使命は、グローバルに監査監督を向上させることにより、投資家を含む公益に資することにある。IFIARメンバーは、今日監査監督当局が直面している重要な新規課題に対応することを通じてこの使命の達成に向けて協働すべくベルリンに集まった。私のIFIAR議長としての任期は満了となるが、この組織を牽引したことは、私にとって大きな喜びであり、名誉である。今後は、新たな議長及び副議長のリーダーシップの下、IFIARがその重要な役割を引き続き果たしていくことを期待している。」

* * *

新たにIFIAR議長に選出されたケビン・プレnderガスト氏（Kevin Prendergast）は次のように述べた。「2025年IFIAR年本会合は、各国のメンバーが一堂に会することの意義を改めて示す機会となった。すなわち、世界中の、監査業界から独立した監査監督当局が、それぞれのベストプラクティス、経験、洞察を互いに共有するための場を提供することができた。本会合の開催に尽力いただいたドイツ（AOB）に感謝するとともに、長岡氏がIFIAR議長として示されたリーダーシップと献身に対して、深く敬意を表したい。」

本会合は、IFIARのメンバーやオブザーバー、その他主要なステークホルダーにとって、急速に変化する環境において、監査市場及び監査当局が直面する様々な重要課題について議論する貴重な機会となった。

- シンポジウムセッションでは、キーノートスピーチとして、調査報道、会計上の失敗及び監査規制やそのアプローチの相互のつながりについて講演が行われた。
- 分科会では、以下の3つの重要テーマに関する議論が行われた。第1のパネルでは、社会的影響度の高い事業体（PIE）及び非PIE監査における重要性を増す中小監査法人に対する各IFIARメンバー当局のアプローチが紹介された。第2のパネルでは、サステナビリティ報告に係る保証業務について取り上げるとともに、企業及び監査事務所において経験や能力の蓄積が依然として求められる中で、規制当局がサステナビリティ報告

¹ Auditor Oversight Body

の質の向上にどのように貢献し得るかが議論された。第3のパネルでは、監査市場を取り巻くテクノロジーの進展に対応すべく、規制活動における人工知能（AI）の活用に関する各国当局の取組について学ぶ機会が提供された。

- 本会合では、その他にも、IAASB（国際監査・保証基準審議会）議長とIESBA（国際会計士倫理基準審議会）議長が、「複雑な環境における基準設定の進展」というテーマの下、現行基準の改善作業を継続しながら新たな課題に対応すべくいかにそのアプローチを適応させているかに触れつつ、それぞれの審議会の基準設定活動について議論した。また、IFIARの投資家及びその他利害関係者作業部会の外部諮問グループのメンバーがパネルに参加し、監査人と投資家及び利害関係者とのコミュニケーションについて議論した。
- これまでと同様、GPPCの各ネットワーク²のグローバルCEOがスピーカーとして招かれ、幅広いテーマについて議論した。例えば、監査品質に関する現在の見方、監査プロセスにおけるAIの活用とその監査業界への長期的影響に関する見解、サステナビリティ保証へのアプローチと当該分野における対応能力強化への取組、監査法人へのプライベート・エクイティ投資の増加傾向とそれが監査品質に及ぼす影響に関する見解などが取り上げられた。

ワーキンググループ及びタスクフォース

IFIARのワーキンググループ（WG）議長及びタスクフォース（TF）リードから、過去1年間の活動報告と今後1年間の計画についての共有があった。IFIARのWG及びTFはメンバー主導で運営されており、IFIARがミッションを達成する上で重要な役割を果たしている。IFIARの5つのWGと3つのTFは、監査品質、検査、執行、基準設定、投資家・その他利害関係者との対話、テクノロジーの活用、サステナビリティ保証の各分野において、実務的な成果物を提供することに焦点を当てている。

IFIAR正副議長及び代表理事の選挙

本会合において、長岡隆氏のIFIAR議長任期が終了した。IFIARは、同氏の長年にわたる複数の役職における貢献及び議長としての卓越したリーダーシップに感謝の意を表した。同時に、新たな正副議長の選挙が行われ、議長にケビン・プレndergast（Kevin Prendergast）氏（アイルランド・IAASA）、副議長に、チア・ターン・フェイ・ミン（Chia-Tern Huey Min）（シンガポール・ACRA）氏が選出された。

代表理事会メンバーについては、4か国のメンバーが各4年の任期で選出さ

²（金融庁/公認会計士・監査審査会事務局注）BDO、Deloitte Touche Tohmatsu、Ernst & Young、Grant Thornton、KPMG及びPricewaterhouseCoopers。

れ、アイルランド (IAASA)、ポーランド (PANA)、シンガポール (ACRA) 及び南アフリカ (IRBA) が、新たに既存のブラジル (CVM)、カナダ (CPAB)、台湾 (FSC)、フランス (H2A)、ドイツ (AOB)、ギリシャ (HAASOBI)、日本 (JFSA/CPAAOB)、オランダ (AFM)、スイス (FAOA)、トルコ (CMB/POA)、英国 (FRC) 及び米国 (PCAOB) に加わり、計16か国・地域のメンバーからなる代表理事会の新体制が発足した。

IFIARについて

監査監督機関国際フォーラム (IFIAR) は、2006年に設立され、アフリカ、北米、南米、アジア、大洋州、欧州の 56 の国・地域の独立した監査監督当局で構成されている。そのミッションは、グローバルに監査監督を向上させることにより、投資家を含む公益に資することである。IFIAR は、世界中の監査品質や規制の実務について、対話や知見の共有ができるプラットフォームを提供し、規制活動における協調を促している。IFIAR の公式のオブザーバーは、バーゼル銀行監督委員会 (BCBS)、欧州委員会 (EC)、金融安定理事会 (FSB)、保険監督者国際機構 (IAIS)、証券監督者国際機構 (IOSCO)、公益監視委員会 (PIOB) 及び世界銀行である。IFIAR に関する更なる情報については、IFIAR ウェブサイト (www.ifiar.org) を参照されたい。